

# 戸倉上山田商工会 景気動向調査

平成28年7~9月期

目 次	
I. 調査要領.....	1
II. 調査結果の概要.....	2
III. 業種別 今期の業況および来期予測.....	3
全業種.....	5
製造業.....	8
IV. 転記表.....	20
建設業.....	11
小売業・サービス業.....	14
観光・宿泊業.....	17

## I. 調査要領

1. 調査時点：平成28年11月
2. 調査対象：戸倉上山田商工会管内事業所140件
3. 調査方法：アンケート調査
4. 分 析：株式会社東京商工リサーチ
5. 回答状況：85件（有効回答率60.7%）
6. 回答企業の従業員数別、資本金別、業種別内訳

### 【従業員数別】

	件数合計	5人以下	6人~20人	21人~50人	51人~100人	101人~300人
回答数	83	46	22	11	3	1
構成比 (%)	100.0	55.4	26.5	13.3	3.6	1.2

### 【資本金別（法人のみ）】

	件数合計	500万円以下	500万円超~1,000万円以下	1,000万円超~2,000万円以下	2,000万円超
回答数	68	29	28	6	5
構成比 (%)	100.0	42.6	41.2	8.8	7.4

### 【業種別】

	件数合計	製造業	非製造業			観光・宿泊業
			建設業	小売業・サービス業		
回答数	85	33	52	18	26	8
構成比 (%)	100.0	38.8	61.2	21.2	30.6	9.4

### 【業種別（詳細）】

	件数合計	製造業	建設業	小売業	飲食店	観光・宿泊業	サービス業	その他
回答数	85	33	18	14	9	8	2	1
構成比 (%)	100.0	38.8	21.2	16.5	10.6	9.4	2.4	1.2

### 【注】

○構成比 (%) については、小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

○数値の前に付した△は「マイナス」を表しています。

○D I (Diffusion Indexの略)

D I (ディーアイ) は、増加（又は「上昇」「楽」など）したと答えた企業割合から、減少（又は「低下」「苦しい」など）したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらが強いかを比べて変化の方向をみようとするものです。

ただし、仕入価格を例にみると、上昇は負担増になるため、企業にとってはマイナス方向の動きとなります。このように、増加（又は「上昇」など）がプラス方向の動きとはならない項目（仕入価格、在庫、雇用（人員過不足感））について、本報告書では「減少したと答えた企業割合から、増加したと答えた企業割合を差引いた数値」でD Iを表しています。

## II. 調査結果の概要

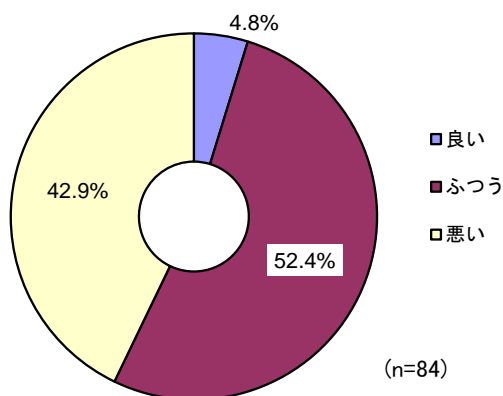
### 1. 景況感

「今期（平成28年7～9月）の市内景気」の水準について、「良い」は4.8%、「ふつう」は52.4%、「悪い」は42.9%となっています。

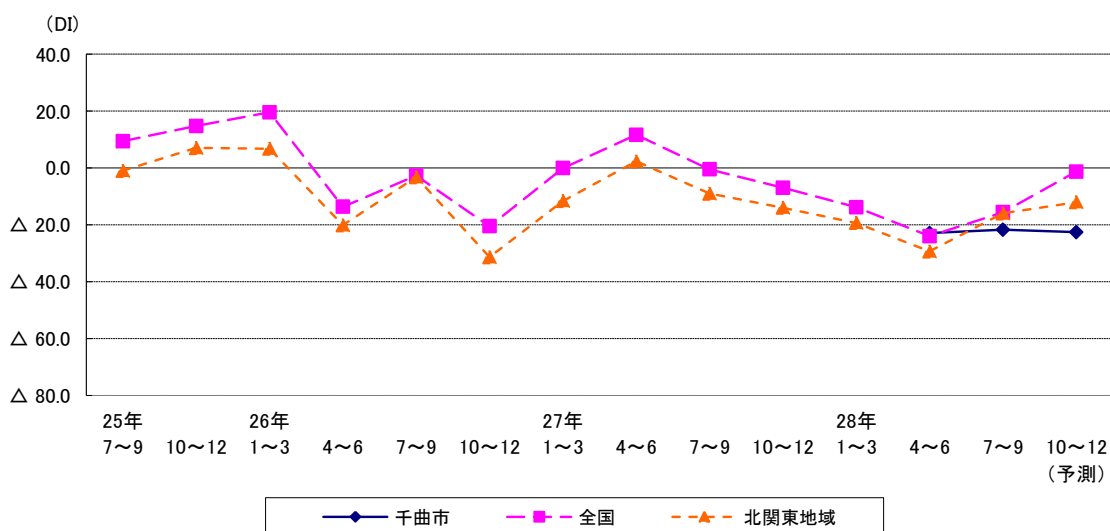
前期（平成28年4～6月）と比較した今期の「市内景況感DI」はマイナス21.7ポイントと、前期より1.2ポイント上昇し、前期同様の悪化が続きました。来期はマイナス22.6ポイントと、今期同様の悪化が続くと見込まれています。

なお、内閣府『景気ウォッチャー調査』の全国と北関東地域の景況感をみると、全国は8.5ポイント上昇のマイナス15.5ポイント、北関東は13.4ポイント上昇のマイナス15.9ポイントといずれも悪化傾向が大きく改善しました。先行きの見通しは、全国、北関東ともに改善すると見込まれています。

今期の市内景気（水準）



市内景況感DI（前期比）と全国・北関東地域の景況感



	25年 7～9	25年 10～12	26年 1～3	26年 4～6	26年 7～9	26年 10～12	27年 1～3	27年 4～6	27年 7～9	27年 10～12	28年 1～3	28年 4～6	28年 7～9	28年 10～12 (予測)
千曲市												△22.9	△21.7	△22.6
全国	9.4	14.8	19.6	△13.6	△2.7	△20.5	△0.1	11.7	△0.5	△7.0	△13.8	△24.0	△15.5	△1.3
北関東地域	△0.9	7.1	6.8	△20.1	△3.2	△31.3	△11.6	2.3	△9.0	△14.0	△19.3	△29.3	△15.9	△12.1

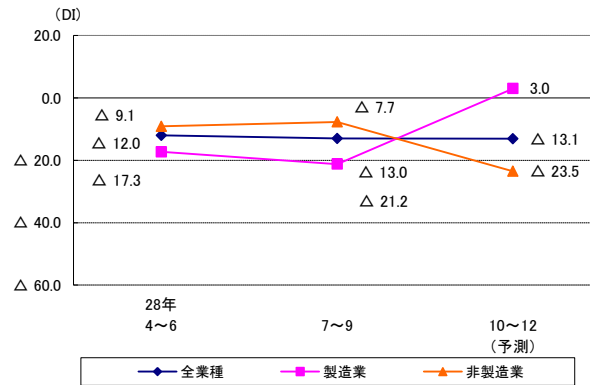
※景況感DI=前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

※「全国」および「北関東地域（茨城県、栃木県、群馬県、山梨県、長野県）」は、内閣府『景気ウォッチャー調査』の月々の結果を当調査で使用している方法で再計算し、3ヶ月ごとに平均値を算出。なお、10～12（予測）値は10月・11月調査の平均値である。

## 2. 業況 DI

自社の業況についてみた「業況 DI」は、全業種で今期はマイナス 13.0 ポイントと、前期より 1.0 ポイント下降し、前期同様の悪化が続きました。来期はマイナス 13.1 ポイントと、今期同様の悪化が続くと予想されています。製造業は今期マイナス 21.2 ポイントと、前期より 3.9 ポイント下降し、悪化幅が拡大しました。非製造業は今期マイナス 7.7 ポイントとなり、前期より 1.4 ポイント上昇し、前期同様の悪化が続きました。来期は、製造業は非常に大きく改善しますが、非製造業は厳しさが大きく強まると予想されています。

業種別業況 DI（前期比）の動き（実績）と来期の予測



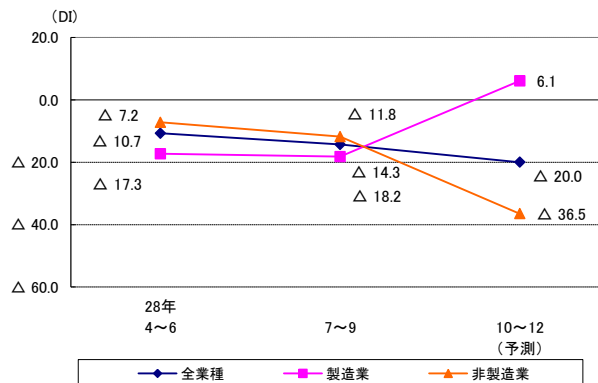
	28年 4~6	7~9	10~12 (予測)
全業種	△ 12.0	△ 13.0	△ 13.1
製造業	△ 17.3	△ 21.2	3.0
非製造業	△ 9.1	△ 7.7	△ 23.5

※業況 DI=前期比で、自社の業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

## 3. 売上高 DI

「売上高 DI」は、全業種で今期はマイナス 14.3 ポイントと、前期より 3.6 ポイント下降し、やや悪化しました。来期はマイナス 20.0 ポイントと大きく悪化する見通しです。製造業は今期マイナス 18.2 ポイントと、前期より 0.9 ポイント下降し、前期同様の悪化が続きました。非製造業は今期マイナス 11.8 と、前期より 4.6 ポイント下降し、やや悪化しました。来期は、製造業で非常に大きく改善しますが、非製造業は非常に大きく悪化すると予想されています。

業種別売上高 DI の動き（実績）と来期の予測



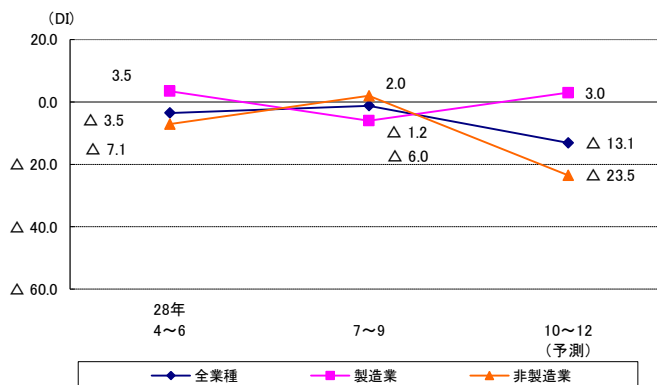
	28年 4~6	7~9	10~12 (予測)
全業種	△ 10.7	△ 14.3	△ 20.0
製造業	△ 17.3	△ 18.2	6.1
非製造業	△ 7.2	△ 11.8	△ 36.5

※売上高 DI=前期比で、売上が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

#### 4. 収益 DI

「収益 DI」は、全業種で今期はマイナス 1.2 ポイントと、前期より 2.3 ポイント上昇し、やや改善しました。来期はマイナス 13.1 ポイントと大きく悪化する見通しです。製造業は今期マイナス 6.0 ポイントと、前期より 9.5 ポイント下降し、大きく悪化しました。非製造業は今期プラス 2.0 と、前期より 9.1 ポイント上昇し、大きく改善しました。来期は、製造業で大きく改善しますが、非製造業は非常に大きく悪化すると予想されています。

業種別収益 DI の動き（実績）と来期の予測



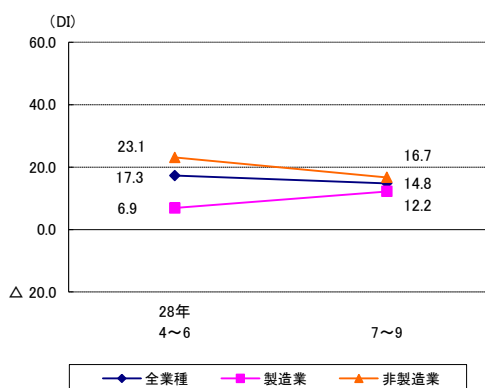
	28年 4~6	7~9	10~12 (予測)
全業種	△ 3.5	△ 1.2	△ 13.1
製造業	3.5	△ 6.0	3.0
非製造業	△ 7.1	2.0	△ 23.5

※収益 DI=前期比で、収益が「改善」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

#### 5. 雇用（人員過不足感）DI

「雇用（人員過不足感）DI」は、全業種で今期はプラス 14.8 ポイントと、前期より 2.5 ポイント下降し、不足傾向がやや改善しました。製造業は今期プラス 12.2 ポイントと、前期より 5.3 ポイント上昇し、不足傾向が大きく強まり、非製造業はプラス 16.7 ポイントと、前期より 6.4 ポイント下降し、不足傾向が大きく改善しました。

業種別雇用の動き（実績）と来期の予測



	28年 4~6	7~9
全業種	17.3	14.8
製造業	6.9	12.2
非製造業	23.1	16.7

※雇用（人員過不足感）DI=今期の人員が「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値。

## Ⅲ. 業種別今期の業況及び来期予測

### 【 全業種 】

#### 景況・業況

今期の市内景気については、景況感 DI（前期比）はマイナス 21.7 と、前期より 1.2 ポイント上昇し、前期同様の悪化が続きました。

今期の業況については、業況 DI（前期比）はマイナス 13.0 と、前期より 1.0 ポイント下降し、こちらも前期同様の悪化が続きました。

#### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はマイナス 14.3 ポイントと、前期より 3.6 ポイント下降し、やや減少しました。

今期の収益 DI はマイナス 1.2 ポイントと、前期より 2.3 ポイント上昇し、やや改善しました。

#### 価格動向

今期の販売価格（前期比）DI はマイナス 9.4 ポイントと、前期より 3.3 ポイント下降しました。

今期の仕入価格（前期比）DI はマイナス 32.1 ポイントと、前期より 9.5 ポイント下降しました。

#### 資金繰り・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 3.6 ポイントと、前期より 14.2 ポイント上昇し、厳しさが和らぎました。

今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 13.6 ポイントと、前期より 13.8 ポイント上昇しました。

平成 28 年度上半期の設備投資計画額(平成 27 年度上半期比)はマイナス 15.0 ポイントとなっています。

今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新(補修・更新)」で、今期は 39.4%、来期は 25.7%です。次に多いのは、今期では「福利厚生」10.6%、来期では「事業(能力)拡大」が 10.0%です。一方、設備投資を実施しない企業は今期 51.5%、来期 57.1%となっています。

#### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 14.8 ポイントと、前期より 2.5 ポイント下降しました。

#### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

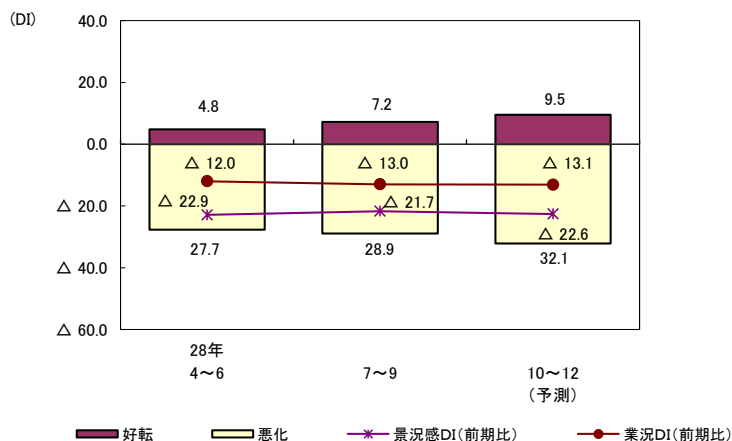
経営上の問題点は、第 1 位「売上(受注)の不振」51.3%、第 2 位「利益の減少」45.0%、第 3 位「機械設備の老朽」32.5%、第 4 位「原材料(仕入れ)高」28.8%、第 5 位「過当競争の激化」23.8%の順となりました。

行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」62.8%、第 2 位「助成制度(補助金等)」46.2%、第 3 位「新設の融資制度」29.5%、第 4 位「公共事業の増加」17.9%、第 5 位「雇用維持支援」14.1%の順となりました。

#### 来期の見通し

来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 22.6 ポイントで今期より 0.9 ポイント下降、業況 DI はマイナス 13.1 ポイントで今期より 0.1 ポイント下降し、いずれも今期同様の悪化が続くと予想されています。また、売上高 DI はマイナス 20.0 ポイントで今期より 5.7 ポイント下降と、大きく減少すると見込まれています。

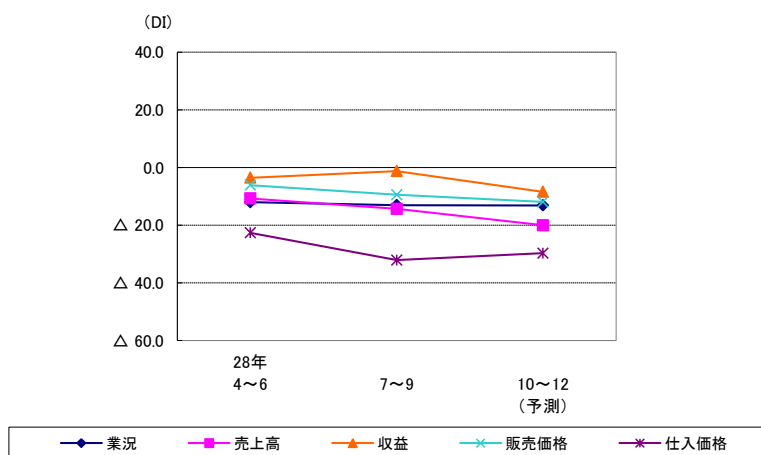
## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



※景況感（水準）は割合で表示。景況感（前期比）、業況（前期比）はDIで表示。

※業況DI=今期の調査対象企業の業況について前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。予測は今期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

## 業況と売上高、収益、販売価格、仕入価格の動き（実績）と来期の予測

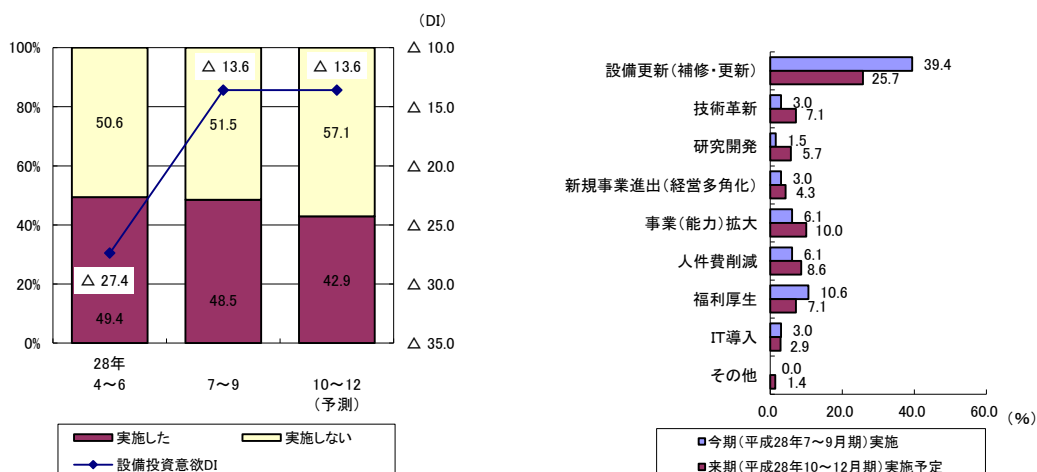


※売上高DI=「増加」とする企業の割合から「減少」とする企業の割合を引いた値。

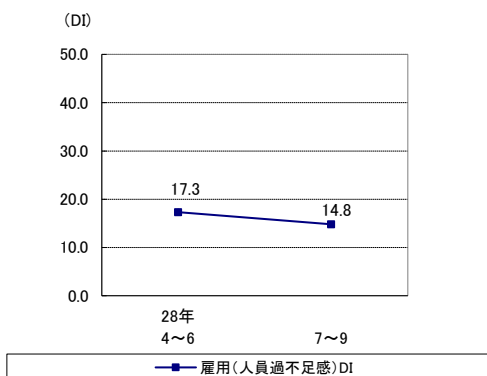
※販売価格DI=「上昇」とする企業の割合から「低下」とする企業の割合を引いた値。

※仕入価格DI=「低下」とする企業の割合から「上昇」とする企業の割合を引いた値。

## 設備投資動向



## 雇用（人員過不足感）DI（％）



## 経営上の問題点（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	売上(受注)の不振	47.1	売上(受注)の不振	51.3
第2位	利益の減少	32.9	利益の減少	45.0
	機械設備の老朽	32.9		
第3位	過当競争の激化	16.5	機械設備の老朽	32.5
第4位	原材料(仕入れ)高	12.9	原材料(仕入れ)高	28.8
	人件費高	12.9		
第5位	求人難	10.6	過当競争の激化	23.8

## 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	減税	58.5	減税	62.8
第2位	助成制度(補助金等)	43.9	助成制度(補助金等)	46.2
第3位	新設の融資制度	22.0	新設の融資制度	29.5
第4位	公共事業の増加	15.9	公共事業の増加	17.9
第5位	雇用維持支援	12.2	雇用維持支援	14.1

## 【 製造業 】

### 景況・業況

今期の市内景況については、景況感 DI（前期比）はマイナス 18.8 ポイントと、前期より 5.3 ポイント上昇し、やや改善しました。

今期の業況については、業況 DI（前期比）はマイナス 21.2 ポイントと、前期より 3.9 ポイント下降し、やや悪化しました。

### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はマイナス 18.2 ポイントと、前期より 0.9 ポイント下降し、前期同様の減少が続きました。

今期の収益 DI はマイナス 6.0 ポイントと、前期より 9.5 ポイント下降し、大きく減少しました。

### 価格動向

今期の販売価格（前期比）DI はマイナス 18.2 ポイントと、前期より 21.8 ポイント下降しました。

今期の原材料価格（前期比）DI はマイナス 18.8 ポイントと、前期より 8.1 ポイント下降しました。

### 資金繰り・借入金・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 6.0 ポイントと、前期より 7.8 ポイント上昇し、大きく厳しさが和らぎました。

今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 3.0 ポイントと、前期より 14.3 ポイント上昇しました。

平成 28 年度上半期の設備投資計画額（平成 27 年度上半期比）は 3.1 ポイントとなっています。

今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新（補修・更新）」で、今期は 42.9%、来期は 29.0%です。次に多いのは、今期では「福利厚生」14.3%、来期では「技術革新」および「事業（能力）拡大」で同率 16.1%です。一方、設備投資を実施しない企業は今期 46.4%、来期 48.4%となっています。

### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 12.2 ポイントと、前期より 5.3 ポイント上昇しました。

### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

経営上の問題点は、第 1 位「利益の減少」50.0%、第 2 位「機械設備の老朽」46.9%、第 3 位「売上（受注）の不振」40.6%、第 4 位「求人難」21.9%、第 5 位「原材料（仕入れ）高」18.8%の順となりました。

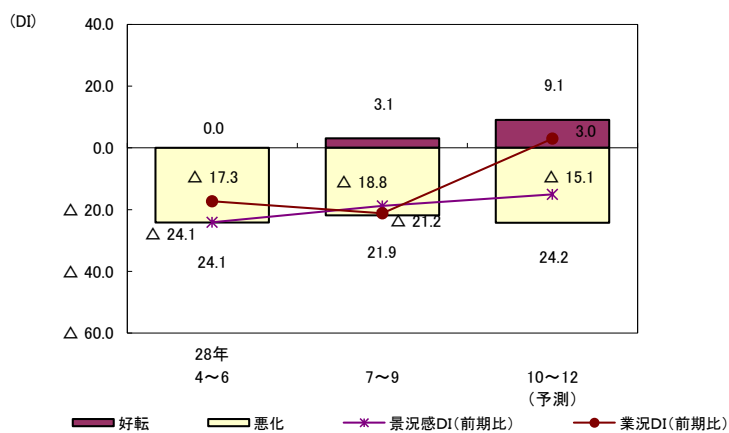
行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」71.0%、第 2 位「助成制度（補助金等）」58.1%。第 3 位「新設の融資制度」29.0%、第 4 位「研修・訓練」「雇用維持支援」および「取引斡旋」が同率で 9.7%、第 5 位「雇用保険の充実」および「転職支援」が同率で 6.5%の順となりました。

### 来期の見通し

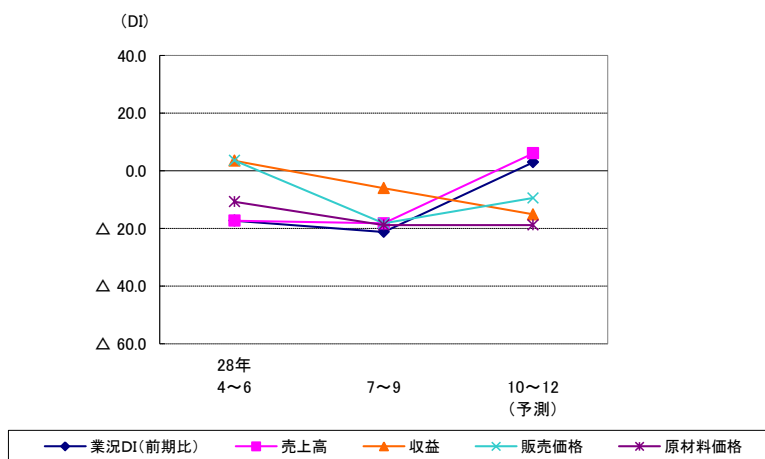
来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 15.1 ポイントで今期より 3.7 ポイント上昇し、やや改善すると予想され、業況 DI はプラス 3.0 ポイントで今期より 24.2 ポイント上昇し、非常に大きく改善し、好転すると予想されています。また、売上高 DI はプラス 6.1 ポイントで今期より 24.3 ポイント上昇し、こちらも非常に大きく改善し、好転すると見込まれています。



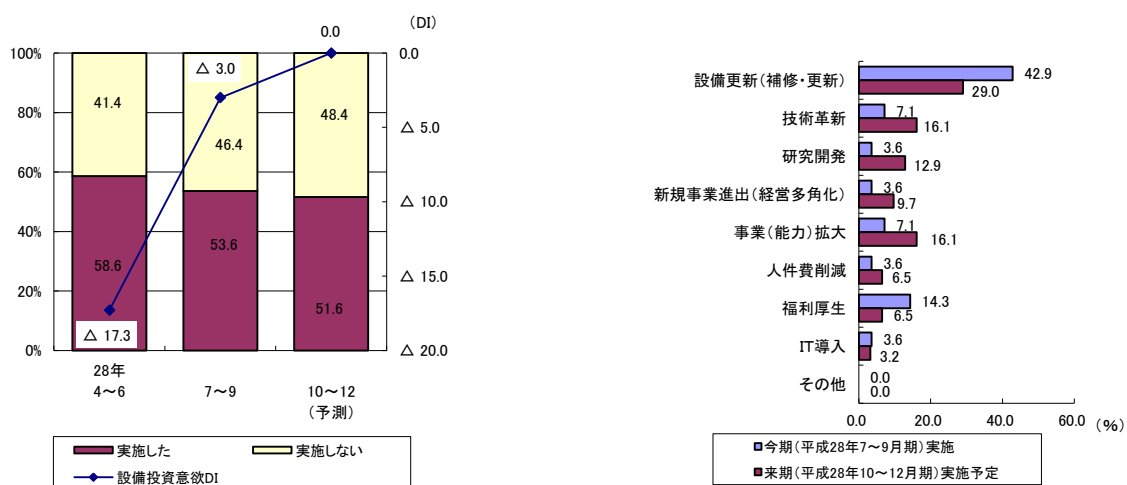
## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



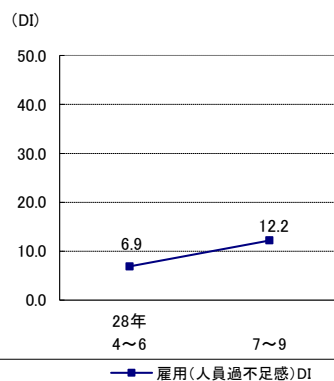
## 業況と売上高、収益、販売価格、原材料価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向



### 雇用（人員過不足感）DI（％）



### 経営上の問題点（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	売上(受注)の不振	37.9	利益の減少	50.0
	利益の減少	37.9		
第2位	機械設備の老朽	34.5	機械設備の老朽	46.9
第3位	人件費高	13.8	売上(受注)の不振	40.6
第4位	求人難	10.3	求人難	21.9
	為替変動	10.3		
第5位	過当競争の激化	6.9	原材料(仕入れ)高	18.8

### 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	減税	64.3	減税	71.0
第2位	助成制度(補助金等)	50.0	助成制度(補助金等)	58.1
第3位	雇用維持支援	17.9	新設の融資制度	29.0
第4位	新設の融資制度	14.3	研修・訓練	9.7
			雇用維持支援	9.7
			取引斡旋	9.7
第5位	研修・訓練	7.1	雇用保険の充実	6.5
	異業種交流	7.1	転職支援	6.5

### 製造業コメント

- ・ 千曲市行政がもっと環境活動に取り組んでほしい。企業を応援してほしい。
- ・ 企業支援策が多く行われているが、周知・説明・申請要件の情報が充足していないように感じる。
- ・ 求人難（パート）に直面しております。
- ・ 戦後 70 年、設備使用 30～40 年、いよいよ設備の補修が大変な時期がきたので、頑張って人・設備に投資を継続していきたい。
- ・ 親会社での内製化により仕事の減少が徐々にあり、期限がはっきりせず方向性が見えない状態です。

## 【 建設業 】

### 景況・業況

今期の市内景況については、景況感 DI（前期比）はマイナス 38.9 ポイントと、前期から変動なく、前期同様の悪化が続きました。

今期の業況については、業況 DI（前期比）はマイナス 22.2 ポイントと、前期より 4.1 ポイント上昇し、やや改善しました。

### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はマイナス 38.8 ポイントと、前期より 7.2 ポイント下降し、大きく減少しました。

今期の収益 DI はマイナス 22.2 ポイントと、前期より 16.9 ポイント下降し、こちらも大きく減少しました。

### 価格動向

今期の請負価格（前期比）DI はマイナス 22.2 ポイントと、前期より 1.1 ポイント下降しました。

今期の材料価格（前期比）DI はマイナス 11.1 ポイントと、前期より 0.5 ポイント下降しました。

### 資金繰り・借入金・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 11.1 ポイントと、前期より 4.7 ポイント上昇し、やや厳しさが和らぎました。

今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 35.3 ポイントと、前期より 14.3 ポイント上昇しました。

平成 28 年度上半期の設備投資計画額(平成 27 年度上半期比)はマイナス 35.3 ポイントとなっています。

今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新（補修・更新）」で、今期と来期で同率 23.1%です。次に多いのは、今期では「事業（能力）拡大」および「福利厚生」で同率 15.4%、来期では「事業（能力）拡大」15.4%です。一方、設備投資を実施しない企業は今期 61.5%、来期 69.2%となっています。

### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 22.2 ポイントと、前期より 11.1 ポイント下降しました。

### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

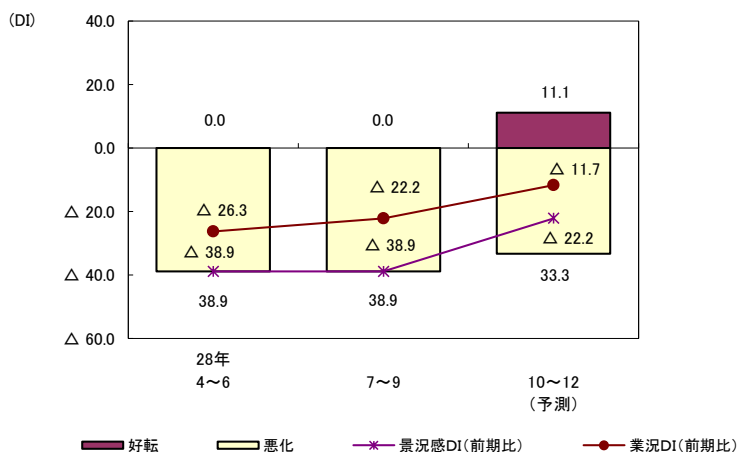
経営上の問題点は、第 1 位「売上(受注)の不振」64.7%、第 2 位「利益の減少」35.3%、第 3 位「原材料(仕入れ)高」29.4%、第 4 位「機械設備の老朽」および「過当競争の激化」が同率で 23.5%、第 5 位「求人難」11.8%の順となりました。

行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」56.3%、第 2 位「公共事業の増加」50.0%、第 3 位「助成制度(補助金等)」25.0%、第 4 位「新設の融資制度」18.8%、第 5 位「雇用維持支援」12.5%の順となりました。

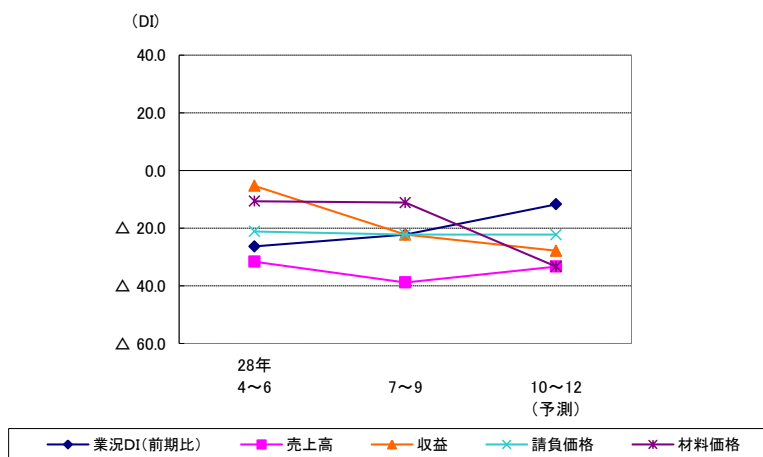
### 来期の見通し

来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 22.2 ポイントと、今期より 16.7 ポイント上昇し、業況 DI はマイナス 11.7 ポイントと、今期より 10.5 ポイント上昇し、ともに大きく改善すると予想されています。また、売上高 DI はマイナス 33.3 ポイントで今期より 5.5 ポイント上昇し、大きく改善すると見込まれています。

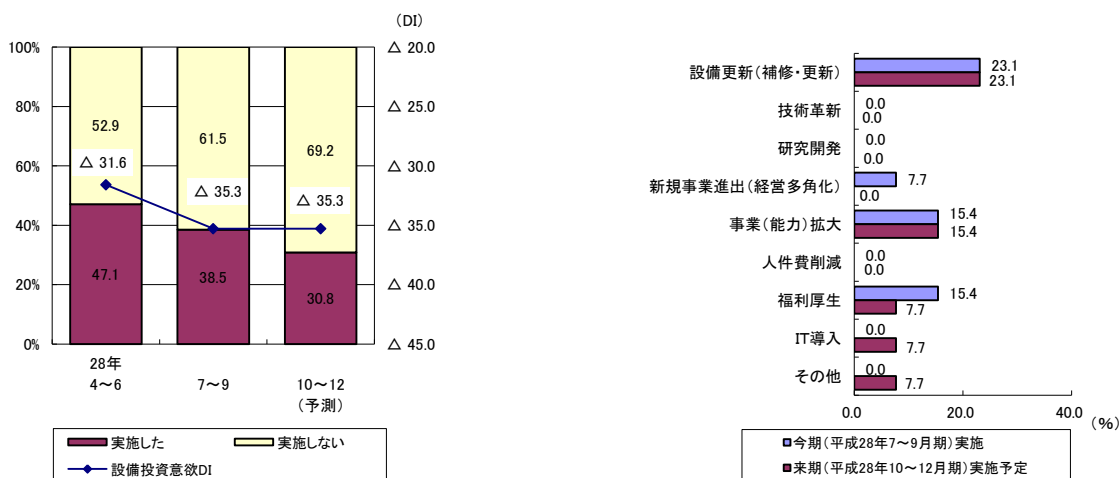
## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



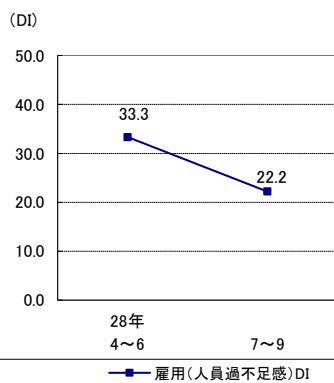
## 業況と売上高、収益、請負価格、材料価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向



## 雇用（人員過不足感）DI（％）



## 経営上の問題点（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	売上(受注)の不振	68.4	売上(受注)の不振	64.7
第2位	機械設備の老朽	36.8	利益の減少	35.3
第3位	利益の減少	21.1	原材料(仕入れ)高	29.4
第4位	求人難	10.5	機械設備の老朽	23.5
	人件費高	10.5	過当競争の激化	23.5
	過当競争の激化	10.5		
第5位	原材料(仕入れ)高	5.3	求人難	11.8

## 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	減税	44.4	減税	56.3
	公共事業の増加	44.4		
第2位	助成制度(補助金等)	16.7	公共事業の増加	50.0
第3位	新設の融資制度	11.1	助成制度(補助金等)	25.0
	雇用維持支援	11.1		
	転職支援	11.1		
第4位	取引斡旋	5.6	新設の融資制度	18.8
第5位			雇用維持支援	12.5

## 建設業コメント

- ・ 建築関係は苦勞が多いので人が集まりません。このままだとどんどん先細りで衰退してしまうと思います。とにかく個人経営はきびしいです。
- ・ 過当競争の激化により、受注の不振、利益の減少につながり、来期の経営に不安を抱きます。
- ・ 建設業者ですが、千曲市の（公共）不景気ぶりには、呆れています。大手ゼネコンや一部市内の大手業者が充実した受注をしているだけで、零細企業は怒りさえ覚えます。市内在住者を雇用し納税をしています、バカバカしく感じます。

## 【 小売業・サービス業 】

### 景況・業況

今期の市内景況については、景況感 DI（前期比）はマイナス 23.1 ポイントと、前期より 4.9 ポイント下降し、やや悪化が強まりました。

今期の業況については、業況 DI（前期比）はマイナス 11.6 ポイントと、前期より 11.6 ポイント下降し、大きく悪化が強まりました。

### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はマイナス 8.0 ポイントと、前期より 12.5 ポイント下降し、大きく減少しました。

一方、今期の収益 DI はプラス 12.0 ポイントと、前期より 16.3 ポイント上昇し、大きく改善して好転しました。

### 価格動向

今期の販売価格（前期比）DI はプラス 7.7 ポイントと、前期より 7.7 ポイント上昇しました。

今期の仕入価格（前期比）DI はマイナス 61.5 ポイントと、前期より 26.7 ポイント下降しました。

### 資金繰り・借入金・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はマイナス 12.0 ポイントと、前期より 1.6 ポイント上昇し、前期同様の厳しさが続きました。

今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 13.0 ポイントと、前期 14.3 ポイント上昇しました。

平成 28 年度上半期の設備投資計画額（平成 27 年度上半期比）はマイナス 17.4 ポイントとなっています。

今期実施の設備投資で最も多いのは「設備更新（補修・更新）」で 27.8%、次に多いのは「人件費削減」および「福利厚生」で同率 5.6%です。来期実施予定の設備投資で最も多いのは「設備更新（補修・更新）」および「福利厚生」で、同率 10.0%です。一方、設備投資を実施しない企業は今期 66.7%、来期 75.0%となっています。

### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI はプラス 18.2 ポイントと、前期より 8.2 ポイント上昇しました。

### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

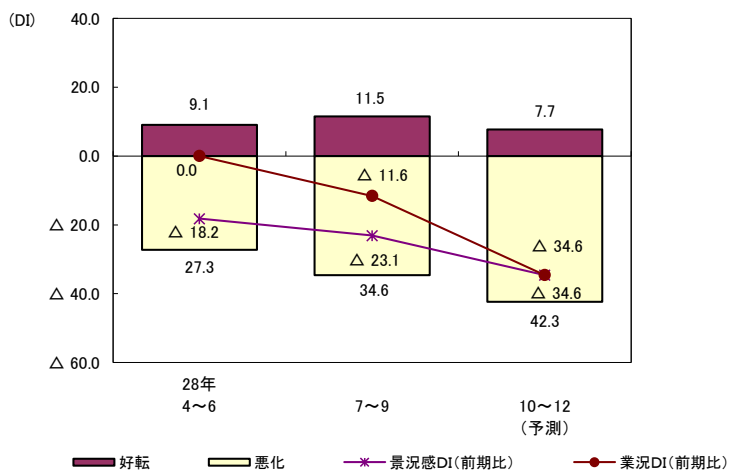
経営上の問題点は、第 1 位「売上（受注）の不振」および「利益の減少」が同率で 52.2%、第 2 位「原材料（仕入れ）高」43.5%、第 3 位「過当競争の激化」26.1%、第 4 位「求人難」および「機械設備の老朽」が同率で 17.4%、第 5 位「設備・店舗の狭小」8.7%の順となりました。

行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」56.5%、第 2 位「助成制度（補助金等）」43.5%、第 3 位「新設の融資制度」30.4%、第 4 位「雇用維持支援」および「公共事業の増加」が同率で 13.0%、第 5 位「研修・訓練」および「取引斡旋」が同率で 8.7%の順となりました。

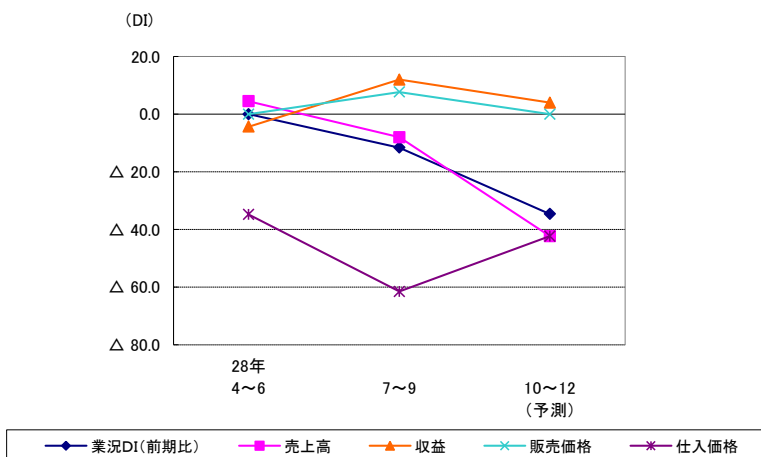
### 来期の見通し

来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 34.6 ポイントと、今期より 11.5 ポイント下降し、悪化が大きく強まると見込まれています。業況 DI はマイナス 34.6 ポイントと、今期より 23.0 ポイント下降と、悪化が非常に大きく強まると見込まれています。売上高 DI はマイナス 42.3 ポイントで今期より 34.3 ポイント下降と、非常に大きく減少すると予想されています。

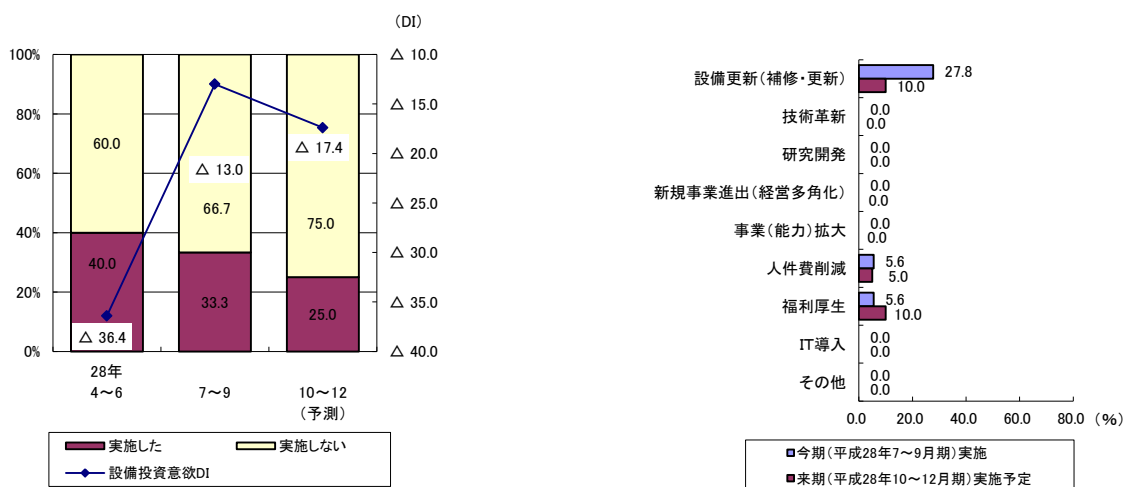
## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



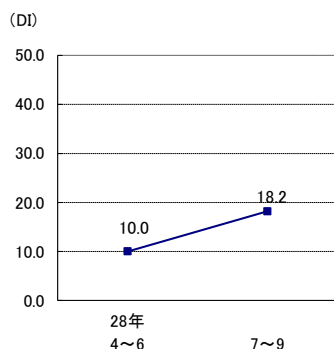
## 業況と売上高、収益、販売価格、仕入価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向



## 雇用（人員過不足感）DI（％）



## 経営上の問題点（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	売上(受注)の不振	34.8	売上(受注)の不振 利益の減少	52.2
第2位	利益の減少 原材料(仕入れ)高	30.4 30.4	原材料(仕入れ)高	43.5
第3位	過当競争の激化	21.7	過当競争の激化	26.1
第4位	機械設備の老朽	13.0	求人難 機械設備の老朽	17.4 17.4
第5位	販売経費増 人件費高 為替変動	8.7 8.7 8.7	設備・店舗の狭小	8.7

## 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	減税	59.1	減税	56.5
第2位	助成制度(補助金等)	36.4	助成制度(補助金等)	43.5
第3位	新設の融資制度	27.3	新設の融資制度	30.4
第4位	セーフガードの発令 異業種交流	13.6 13.6	雇用維持支援 公共事業の増加	13.0 13.0
第5位	公共事業の増加	9.1	研修・訓練 取引斡旋	8.7 8.7

## 小売業・サービス業コメント

- ・ 繁忙期と閑散期の差が大きく人材の確保も大変です。経営面での安定性がなく仕入れのロスが大きい。
- ・ 業種間競争での生き残り方。
- ・ 酒類販売小売市場の崩壊は私ども個人事業者にとって痛切な問題である。自由市場なら仕方ないと思うが、免許取得じゃないと販売出来ない商品なので尚更である。
- ・ 新しいものに飛びつき、既存を大切にしない行政の姿勢の干曲市。業を通して貢献する者には不安を感じている者の声が多い。後継者が育たない。信毎には「行政の活動が拙速だ」そして「巧遅だ」と指摘されていた。
- ・ 余りにも小規模すぎてなにも言えません。



## 【 観光・宿泊業 】

### 景況・業況

今期の市内景況については、景況感 DI（前期比）はプラス 14.3 ポイントと、前期より 21.4 ポイント上昇し、非常に大きく改善し、好転しました。

今期の業況については、業況 DI（前期比）はプラス 37.5 ポイントと、同様に前期より 37.5 ポイント上昇、同様に非常に大きく好転しました。

### 売上高・収益

今期の売上高 DI（前期比）はプラス 37.5 ポイントと、前期より 30.3 ポイント上昇し、非常に大きく増加しました。

今期の収益 DI はプラス 25.0 ポイントと、前期より 39.3 ポイント上昇し、同様に非常に大きく増加しました。

### 価格動向

今期の料金価格（前期比）DI は 0.0 ポイントと、前期より 14.3 ポイント上昇し、大きく改善しました。

今期の仕入価格（前期比）DI はマイナス 37.5 ポイントと、前期より 5.4 ポイント上昇し、やや改善しました。

### 資金繰り・借入金・設備投資動向

今期の資金繰り DI（前期比）はプラス 50.0 ポイントと、前期より 85.7 ポイント上昇し、非常に大きく好転しました。

今期の設備投資意欲 DI（前期比）はマイナス 12.5 ポイントと、前期より 14.3 ポイント上昇しました。

平成 28 年度上半期の設備投資計画額（平成 27 年度上半期比）はマイナス 37.5 ポイントとなっています。

今期実施、および来期実施予定の設備投資ともに最も多いのは「設備更新（補修・更新）」で、今期は 85.7%、来期は 66.7%です。次に多いのは今期・来期ともに「人件費削減」で今期 28.6%、来期 50.0%となっています。一方、設備投資を実施しない企業は今期 14.3%、来期 16.7%となっています。

### 雇用

今期の雇用（人員過不足感）DI は 0.0 ポイントと、前期より 28.6 ポイント下降しました。

### 経営上の問題・行政等が行う企業支援策

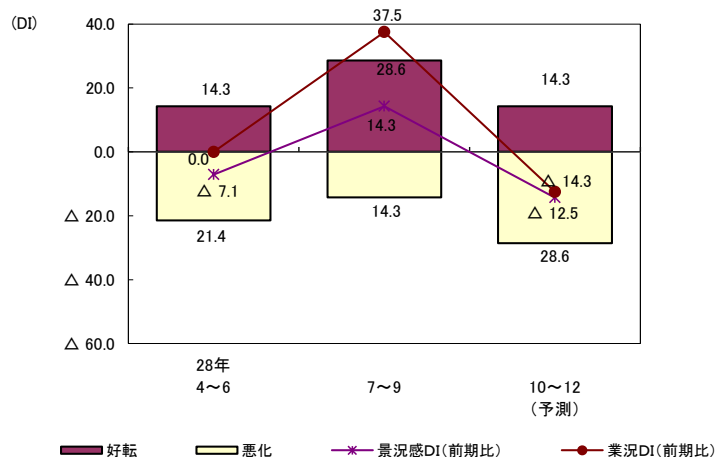
経営上の問題点は、第 1 位「売上（受注）の不振」62.5%、第 2 位「過当競争の激化」50.0%、第 3 位「人件費高」および「機械設備の老朽」が同率で 37.5%、第 4 位「利益の減少」「原材料（仕入れ）高」および「代金回収困難」が同率で 25.0%、第 5 位「販売経費増」および「求人難」が同率で 12.5%の順となりました。

行政等が行う企業支援策で効果があると思われるものは、第 1 位「減税」62.5%、第 2 位「助成制度（補助金等）」および「新設の融資制度」が同率で 50.0%、第 3 位「雇用維持支援」37.5%、第 4 位「公共事業の増加」25.0%、第 5 位「研修・訓練」12.5%の順となりました。

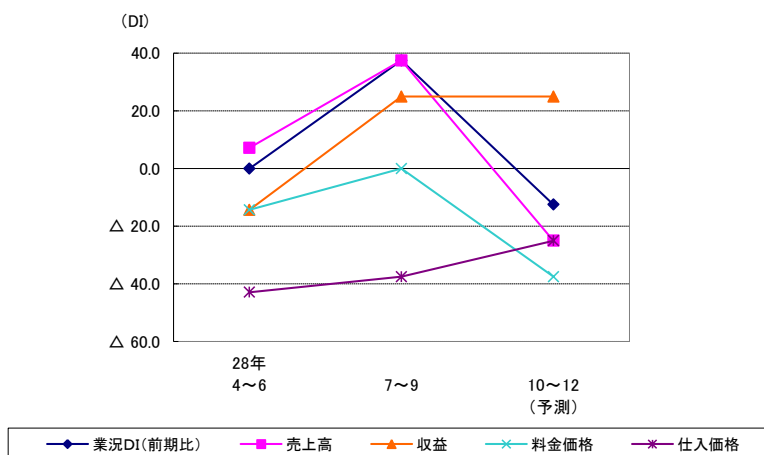
### 来期の見通し

来期の見通しについては、景況感 DI はマイナス 14.3 ポイントと、今期より 28.6 ポイント下降、業況 DI はマイナス 12.5 ポイントと、今期より 50.0 ポイント下降し、いずれも非常に大きく悪化すると予想されています。また、売上高 DI はマイナス 25.0 ポイントと、今期より 62.5 ポイント下降し、非常に大きく減少すると見込まれています。

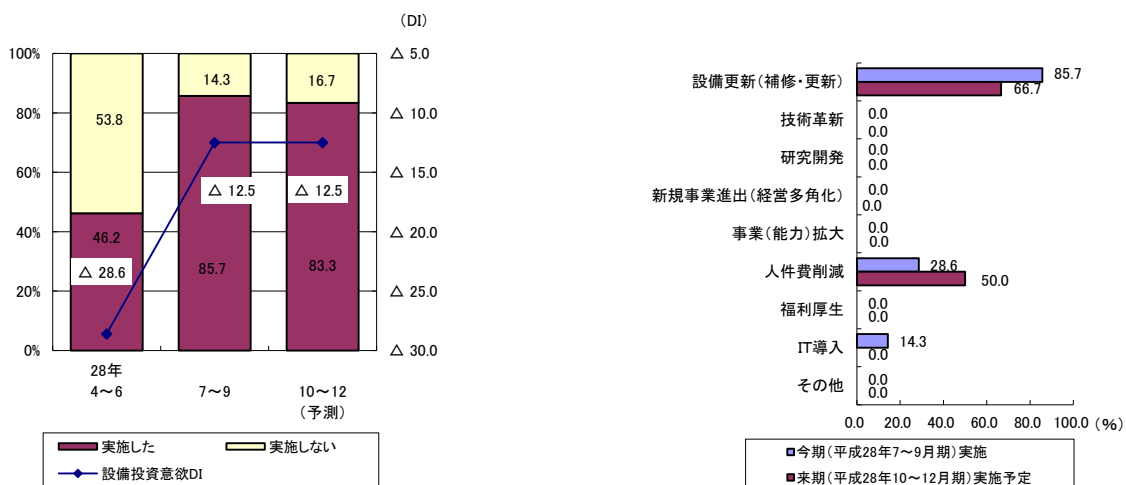
## 景況感・業況の動き（実績）と来期の予測



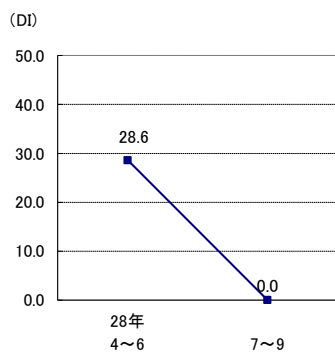
## 業況と売上高、収益、料金価格、材料価格の動き（実績）と来期の予測



## 設備投資動向



### 雇用（人員過不足感）DI（％）



### 経営上の問題点（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	売上(受注)の不振	57.1	売上(受注)の不振	62.5
	機械設備の老朽	57.1		
第2位	利益の減少	42.9	過当競争の激化	50.0
第3位	過当競争の激化	35.7	人件費高	37.5
			機械設備の老朽	37.5
第4位	求人難	21.4	利益の減少	25.0
	人件費高	21.4	原材料(仕入れ)高	25.0
	借入難(割引難)	21.4	代金回収困難	25.0
第5位	原材料(仕入れ)高	14.3	販売経費増	12.5
			求人難	12.5

### 行政等が行う企業支援策（効果があると思われるもの）（％）

	平成28年4～6月期		平成28年7～9月期	
第1位	助成制度(補助金等)	78.6	減税	62.5
第2位	減税	64.3	助成制度(補助金等)	50.0
			新設の融資制度	50.0
第3位	新設の融資制度	42.9	雇用維持支援	37.5
第4位	公共事業の増加	14.3	公共事業の増加	25.0
	雇用維持支援	14.3		
	研修・訓練	14.3		
第5位	雇用保険の充実	7.1	研修・訓練	12.5
	産学官の連携	7.1		

### 観光・宿泊業コメント

- ・ 真田丸効果により売上増も、単価減少、原材料費高、送客手数料など集客経費の増があり、期待したほど利益が出てこない状況。
- ・ 今年はNHK大河ドラマで上田城がクローズアップされ、相当の観光客が見学に来ているらしいが、宿泊には全てが結びつかなかった。

# VI. 転記表

## 戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 7～9 月期

業種：全業種

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

調査期		28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)	
景況感	良い	3.6	4.8			
	普通	44.0	52.4			
	悪い	52.4	42.9			
	DI	△ 48.8	△ 38.1	10.7		
	好転	4.8	7.2	4.8	9.5	
	不変	67.5	63.9	56.6	58.3	
	悪化	27.7	28.9	38.6	32.1	
	DI	△ 22.9	△ 21.7	△ 33.8	1.2	△ 22.6
	業況	良い	11.8	11.9		
普通		51.8	54.8			
悪い		36.5	33.3			
DI		△ 24.7	△ 21.4	3.3		
好転		19.0	14.1	11.9	15.5	
不変		50.0	58.8	50.0	56.0	
悪化		31.0	27.1	38.1	28.6	
DI	△ 12.0	△ 13.0	△ 26.2	△ 1.0	△ 13.1	
売上高	増加	22.6	22.6	15.5	18.8	
	不変	44.0	40.5	38.1	42.4	
	減少	33.3	36.9	46.4	38.8	
	DI	△ 10.7	△ 14.3	△ 30.9	△ 3.6	△ 20.0
収益	黒字	16.5	22.6			
	収益均衡	63.5	53.6			
	赤字	20.0	23.8			
	DI	△ 3.5	△ 1.2	2.3		
	改善			13.1	12.9	
	悪化			47.6	55.3	
販売価格	上昇	10.8	9.4	3.6	7.1	
	不変	72.3	71.8	73.5	73.8	
	低下	16.9	18.8	22.9	19.0	
	DI	△ 6.1	△ 9.4	△ 19.3	△ 3.3	△ 11.9
仕入価格	上昇	28.6	35.7	28.9	33.3	
	不変	65.5	60.7	65.1	63.1	
	低下	6.0	3.6	6.0	3.6	
	DI	△ 22.6	△ 32.1	△ 22.9	△ 9.5	△ 29.7
在庫	過剰	9.0	9.9	7.9	10.0	
	適正	88.5	90.1	89.5	88.8	
	不足	2.6	0.0	2.6	1.3	
	DI	△ 6.4	△ 9.9	△ 5.3	△ 3.5	△ 8.7
資金繰り	好転	4.8	11.9	9.5	9.5	
	不変	72.6	72.6	70.2	69.0	
	悪化	22.6	15.5	20.2	21.4	
	DI	△ 17.8	△ 3.6	△ 10.7	14.2	△ 11.9
同期前年比	売上	△ 28.5	△ 15.5			
	収益	△ 21.2	△ 8.4	12.8		
雇用(人員)	過剰	2.5	2.5			
	適正	77.8	80.2			
	不足	19.8	17.3			
	DI	17.3	14.8	△ 2.5		
有効回答事業所数		85	85			

No.2

調査期		28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)		
設備投資動向	設備投資意欲	△ 27.4	△ 13.6	△ 22.6	13.8	△ 13.6	
	設備投資状況	△ 6.4	△ 15.0				
	実施した(%)	49.4	48.5	35.6		42.9	
	投資内容						
	設備更新(補修・更新)	43.0	39.4	27.4		25.7	
	技術革新	7.6	3.0	1.4		7.1	
	研究開発	1.3	1.5	1.4		5.7	
	新規事業進出(経営多角化)	3.8	3.0	4.1		4.3	
	事業(能力)拡大	5.1	6.1	8.2		10.0	
	人件費削減	5.1	6.1	5.5		8.6	
	福利厚生	5.1	10.6	8.2		7.1	
	IT導入	1.3	3.0	1.4		2.9	
	その他	2.5	0.0	1.4		1.4	
	実施しない(%)	50.6	51.5	64.4		57.1	
	経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振	47.1	51.3			
		利益の減少	32.9	45.0			
		原材料(仕入れ)高	12.9	28.8			
原材料不足		1.2	0.0				
販売経費増		2.4	2.5				
求人難		10.6	17.5				
人件費高		12.9	10.0				
代金回収困難		1.2	5.0				
支払期間の短縮		0.0	0.0				
借入難(割引難)		4.7	0.0				
金利変動		0.0	0.0				
株価変動		0.0	0.0				
為替変動		5.9	3.8				
設備・店舗の狭小		2.4	3.8				
機械設備の老朽	32.9	32.5					
過当競争の激化	16.5	23.8					
特に問題なし	15.3	6.3					
その他	4.7	5.0					
行政等に希望する企業支援策(%)	減税	58.5	62.8				
	公共事業の増加	15.9	17.9				
	新設の融資制度	22.0	29.5				
	助成制度(補助金等)	43.9	46.2				
	セーフガードの発令	4.9	0.0				
	取引斡旋	3.7	7.7				
	社債引受	0.0	0.0				
	雇用維持支援	12.2	14.1				
	転職支援	3.7	3.8				
	雇用保険の充実	1.2	2.6				
	研修・訓練	4.9	9.0				
	異業種交流	6.1	2.6				
	産学官の連携	1.2	2.6				
特になし	17.1	12.8					
その他	3.7	2.6					
有効回答事業所数		85	85				

戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 7～9 月期

業種：製造業

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

項目	調査期	28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)	
景況感	良い	0.0	3.0			
	普通	42.9	60.6			
	悪い	57.1	36.4			
	DI	△ 57.1	△ 33.4		23.7	
	好転	0.0	3.1	3.4	9.1	
	不変	75.9	75.0	51.7	66.7	
	悪化	24.1	21.9	44.8	24.2	
	DI	△ 24.1	△ 18.8	△ 41.4	5.3	△ 15.1
業況	良い	10.3	9.4			
	普通	55.2	56.3			
	悪い	34.5	34.4			
	DI	△ 24.2	△ 25.0		△ 0.8	
	好転	10.3	9.1	6.9	21.2	
	不変	62.1	60.6	51.7	60.6	
	悪化	27.6	30.3	41.4	18.2	
	DI	△ 17.3	△ 21.2	△ 34.5	△ 3.9	3.0
売上高	増加	17.2	18.2	13.8	27.3	
	不変	48.3	45.5	37.9	51.5	
	減少	34.5	36.4	48.3	21.2	
	DI	△ 17.3	△ 18.2	△ 34.5	△ 0.9	6.1
	収益	黒字	13.8	18.2		
収益均衡		75.9	57.6			
赤字		10.3	24.2			
DI		3.5	△ 6.0		△ 9.5	
改善				10.3	15.2	
不変				48.3	63.6	
悪化				41.4	21.2	
DI				△ 31.1	△ 6.0	
販売価格	上昇	14.3	3.0	3.6	3.1	
	不変	75.0	75.8	78.6	84.4	
	低下	10.7	21.2	17.9	12.5	
	DI	3.6	△ 18.2	△ 14.3	△ 21.8	△ 9.4
	原材料 価格	上昇	14.3	18.8	14.3	18.8
不変		82.1	81.3	82.1	81.3	
低下		3.6	0.0	3.6	0.0	
DI		△ 10.7	△ 18.8	△ 10.7	△ 8.1	△ 18.8
在庫		過剰	6.9	12.1	13.8	12.5
	適正	89.7	87.9	82.8	84.4	
	不足	3.4	0.0	3.4	3.1	
	DI	△ 3.5	△ 12.1	△ 10.4	△ 8.6	△ 9.4
	資金繰り	好転	3.4	6.1	10.3	12.1
不変		79.3	81.8	65.5	75.8	
悪化		17.2	12.1	24.1	12.1	
DI		△ 13.8	△ 6.0	△ 13.8	7.8	0.0
同期比		売上	△ 27.6	△ 24.2		
	収益	△ 27.6	△ 15.1			
雇用 (人員 不足感)	過剰	3.4	3.0			
	適正	86.2	81.8			
	不足	10.3	15.2			
	DI	6.9	12.2		5.3	
有効回答事業所数		29	33			

No.2

項目	調査期	28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)	
設備投資動向	設備投資意欲	△ 17.3	△ 3.0	△ 17.3	14.3	0.0
	設備投資状況	3.4	3.1			
	実施した(%)	58.6	53.6	39.3		51.6
	設備更新(補修・更新)	51.7	42.9	32.1		29.0
	技術革新	17.2	7.1	3.6		16.1
	研究開発	0.0	3.6	0.0		12.9
	新規事業進出(経営多角化)	0.0	3.6	3.6		9.7
	事業(能力)拡大	6.9	7.1	7.1		16.1
	人件費削減	3.4	3.6	0.0		6.5
	福利厚生	3.4	14.3	7.1		6.5
	IT導入	0.0	3.6	3.6		3.2
	その他	3.4	0.0	0.0		0.0
	実施しない(%)	41.4	46.4	60.7		48.4
	経営上の 問題点 (%)	売上(受注)の不振	37.9	40.6		
利益の減少		37.9	50.0			
原材料(仕入れ)高		3.4	18.8			
原材料不足		0.0	0.0			
販売経費増		0.0	0.0			
求人難		10.3	21.9			
人件費高		13.8	12.5			
代金回収困難		3.4	6.3			
支払期間の短縮		0.0	0.0			
借入難(割引難)		3.4	0.0			
金利変動		0.0	0.0			
株価変動		0.0	0.0			
為替変動		10.3	6.3			
設備・店舗の狭小		3.4	3.1			
機械設備の老朽	34.5	46.9				
過当競争の激化	6.9	15.6				
特に問題なし	24.1	9.4				
その他	3.4	6.3				
行政等に 希望する 企業支 援策 (%)	減税	64.3	71.0			
	公共事業の増加	3.6	3.2			
	新設の融資制度	14.3	29.0			
	助成制度(補助金等)	50.0	58.1			
	セーフガードの発令	3.6	0.0			
	取引斡旋	3.6	9.7			
	社債引受	0.0	0.0			
	雇用維持支援	17.9	9.7			
	転職支援	3.6	6.5			
	雇用保険の充実	0.0	6.5			
研修・訓練	7.1	9.7				
異業種交流	7.1	3.2				
産学官の連携	0.0	3.2				
特になし	14.3	12.9				
その他	0.0	3.2				
有効回答事業所数		29	33			

戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 7～9 月期

業種：建設業

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

項目		調査期 28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)
景況感	良い	5.3	0.0		
	普通	47.4	55.6		
	悪い	47.4	44.4		
	DI	△ 42.1	△ 44.4		△ 2.3
	好転	0.0	0.0	0.0	11.1
	不変	61.1	61.1	72.2	55.6
	悪化	38.9	38.9	27.8	33.3
	DI	△ 38.9	△ 38.9	△ 27.8	0.0
業況	良い	5.3	0.0		
	普通	52.6	61.1		
	悪い	42.1	38.9		
	DI	△ 36.8	△ 38.9		△ 2.1
	好転	10.5	5.6	0.0	11.8
	不変	52.6	66.7	52.6	64.7
	悪化	36.8	27.8	47.4	23.5
	DI	△ 26.3	△ 22.2	△ 47.4	4.1
売上高	増加	15.8	5.6	0.0	5.6
	不変	36.8	50.0	42.1	55.6
	減少	47.4	44.4	57.9	38.9
	DI	△ 31.6	△ 38.8	△ 57.9	△ 7.2
収益	黒字	15.8	16.7		
	収益均衡	63.2	44.4		
	赤字	21.1	38.9		
	DI	△ 5.3	△ 22.2		△ 16.9
	改善			5.3	11.1
	不変			42.1	50.0
	悪化			52.6	38.9
DI			△ 47.3	△ 27.8	
請負価格	上昇	0.0	0.0	0.0	0.0
	不変	78.9	77.8	78.9	77.8
	低下	21.1	22.2	21.1	22.2
	DI	△ 21.1	△ 22.2	△ 21.1	△ 1.1
材料価格	上昇	21.1	16.7	15.8	33.3
	不変	68.4	77.8	68.4	66.7
	低下	10.5	5.6	15.8	0.0
	DI	△ 10.6	△ 11.1	0.0	△ 0.5
在庫	過剰	5.6	6.3	5.6	6.3
	適正	94.4	93.8	94.4	93.8
	不足	0.0	0.0	0.0	0.0
	DI	△ 5.6	△ 6.3	△ 5.6	△ 0.7
資金繰り	好転	5.3	5.6	0.0	5.6
	不変	73.7	77.8	78.9	72.2
	悪化	21.1	16.7	21.1	22.2
	DI	△ 15.8	△ 11.1	△ 21.1	4.7
同期前年比	売上	△ 57.9	△ 22.2		
	収益	△ 21.0	△ 27.8		
雇用（人員） 過不足感	過剰	0.0	0.0		
	適正	66.7	77.8		
	不足	33.3	22.2		
	DI	33.3	22.2		△ 11.1
有効回答事業所数		19		18	

No.2

項目		調査期 28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)		
設備投資動向	設備投資意欲	△ 31.6	△ 35.3	△ 42.1	14.3	△ 35.3	
	設備投資状況	△ 22.2	△ 35.3				
	実施した(%)	47.1	38.5	43.7		30.8	
	投資内容	設備更新(補修・更新)	35.3	23.1	25.0		23.1
		技術革新	0.0	0.0	0.0		0.0
		研究開発	5.9	0.0	0.0		0.0
		新規事業進出(経営多角化)	5.9	7.7	6.3		0.0
		事業(能力)拡大	5.9	15.4	18.8		15.4
		人件費削減	5.9	0.0	12.5		0.0
		福利厚生	17.6	15.4	18.8		7.7
		IT導入	0.0	0.0	0.0		7.7
	その他	5.9	0.0	6.3		7.7	
	実施しない(%)	52.9	61.5	56.3		69.2	
経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振	68.4	64.7				
	利益の減少	21.1	35.3				
	原材料(仕入れ)高	5.3	29.4				
	原材料不足	0.0	0.0				
	販売経費増	0.0	5.9				
	求人難	10.5	11.8				
	人件費高	10.5	0.0				
	代金回収困難	0.0	0.0				
	支払期間の短縮	0.0	0.0				
	借入難(割引難)	0.0	0.0				
	金利変動	0.0	0.0				
	株価変動	0.0	0.0				
	為替変動	0.0	0.0				
	設備・店舗の狭小	0.0	0.0				
	機械設備の老朽	36.8	23.5				
過当競争の激化	10.5	23.5					
特に問題なし	5.3	5.9					
その他	10.5	11.8					
行政等に希望する企業支援策(%)	減税	44.4	56.3				
	公共事業の増加	44.4	50.0				
	新設の融資制度	11.1	18.8				
	助成制度(補助金等)	16.7	25.0				
	セーフガードの発令	0.0	0.0				
	取引斡旋	5.6	6.3				
	社債引受	0.0	0.0				
	雇用維持支援	11.1	12.5				
	転職支援	11.1	0.0				
	雇用保険の充実	0.0	0.0				
研修・訓練	0.0	6.3					
異業種交流	0.0	0.0					
産学官の連携	0.0	0.0					
特になし	22.2	12.5					
その他	5.6	6.3					
有効回答事業所数		19		18			

戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 7～9 月期

業種：小売業・サービス業

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

調査期		28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)
景況感	良い	4.3	3.8		
	普通	47.8	46.2		
	悪い	47.8	50.0		
	DI	△ 43.5	△ 46.2		△ 2.7
	好転	9.1	11.5	4.5	7.7
	不変	63.6	53.8	45.5	50.0
	悪化	27.3	34.6	50.0	42.3
	DI	△ 18.2	△ 23.1	△ 45.5	△ 4.9
業況	良い	8.7	15.4		
	普通	52.2	53.8		
	悪い	39.1	30.8		
	DI	△ 30.4	△ 15.4		15.0
	好転	31.8	19.2	9.1	7.7
	不変	36.4	50.0	50.0	50.0
	悪化	31.8	30.8	40.9	42.3
	DI	0.0	△ 11.6	△ 31.8	△ 11.6
売上高	増加	31.8	28.0	13.6	11.5
	不変	40.9	36.0	45.5	34.6
	減少	27.3	36.0	40.9	53.8
	DI	4.5	△ 8.0	△ 27.3	△ 12.5
収益	黒字	17.4	32.0		
	収益均衡	60.9	48.0		
	赤字	21.7	20.0		
	DI	△ 4.3	12.0		16.3
	改善			9.1	11.5
	不変			59.1	50.0
販売価格	上昇	13.6	19.2	9.1	15.4
	不変	72.7	69.2	68.2	69.2
	低下	13.6	11.5	22.7	15.4
	DI	0.0	7.7	△ 13.6	7.7
仕入価格	上昇	43.5	69.2	45.5	50.0
	不変	47.8	23.1	50.0	42.3
	低下	8.7	7.7	4.5	7.7
	DI	△ 34.8	△ 61.5	△ 41.0	△ 26.7
在庫	過剰	14.3	8.0	5.3	8.0
	適正	85.7	92.0	94.7	92.0
	不足	0.0	0.0	0.0	0.0
	DI	△ 14.3	△ 8.0	△ 5.3	6.3
資金繰り	好転	9.1	12.0	9.1	8.0
	不変	68.2	64.0	77.3	60.0
	悪化	22.7	24.0	13.6	32.0
	DI	△ 13.6	△ 12.0	△ 4.5	1.6
同期前年比	売上	△ 9.1	△ 8.0		
	収益	△ 13.1	4.0		
過雇用(不足感)人員	過剰	0.0	0.0		
	適正	90.0	81.8		
	不足	10.0	18.2		
	DI	10.0	18.2		8.2
有効回答事業所数		23		26	

No.2

調査期		28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)	
設備投資動向	設備投資意欲	△ 36.4	△ 13.0	△ 22.8	14.3	△ 17.4
	設備投資状況	0.0	△ 17.4			
	実施した(%)	40.0	33.3	25.0		25.0
	設備更新(補修・更新)	35.0	27.8	18.8		10.0
	技術革新	5.0	0.0	0.0		0.0
	研究開発	0.0	0.0	6.3		0.0
	新規事業進出(経営多角化)	10.0	0.0	6.3		0.0
	事業(能力)拡大	5.0	0.0	6.3		0.0
	人件費削減	5.0	5.6	0.0		5.0
	福利厚生	0.0	5.6	0.0		10.0
	IT導入	5.0	0.0	0.0		0.0
	その他	0.0	0.0	0.0		0.0
	実施しない(%)	60.0	66.7	75.0		75.0
	経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振	34.8	52.2		
利益の減少		30.4	52.2			
原材料(仕入れ)高		30.4	43.5			
原材料不足		4.3	0.0			
販売経費増		8.7	0.0			
求人難		4.3	17.4			
人件費高		8.7	4.3			
代金回収困難		0.0	0.0			
支払期間の短縮		0.0	0.0			
借入難(割引難)		0.0	0.0			
金利変動		0.0	0.0			
株価変動		0.0	0.0			
為替変動		8.7	4.3			
設備・店舗の狭小		4.3	8.7			
機械設備の老朽	13.0	17.4				
過当競争の激化	21.7	26.1				
特に問題なし	21.7	4.3				
その他	4.3	0.0				
行政等に希望する企業支援策(%)	減税	59.1	56.5			
	公共事業の増加	9.1	13.0			
	新設の融資制度	27.3	30.4			
	助成制度(補助金等)	36.4	43.5			
	セーフガードの発令	13.6	0.0			
	取引斡旋	4.5	8.7			
	社債引受	0.0	0.0			
	雇用維持支援	4.5	13.0			
	転職支援	0.0	4.3			
	雇用保険の充実	0.0	0.0			
	研修・訓練	0.0	8.7			
異業種交流	13.6	4.3				
産学官の連携	0.0	4.3				
特になし	27.3	13.0				
その他	0.0	0.0				
有効回答事業所数		23		26		

戸倉上山田商工会 景気動向調査 転記表

平成 28 年 7～9 月期

業種：観光・宿泊業

注：各項目の右側は、前期調査における予想（計画）値です。

No.1

項目		調査期	28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)
景況感	良い		7.1	28.6		
	普通		35.7	28.6		
	悪い		57.1	42.9		
	DI		△ 50.0	△ 14.3		35.7
	好転		14.3	28.6	14.3	14.3
	不変		64.3	57.1	64.3	57.1
	悪化		21.4	14.3	21.4	28.6
	DI		△ 7.1	14.3	△ 7.1	21.4
業況	良い		28.6	37.5		
	普通		42.9	37.5		
	悪い		28.6	25.0		
	DI		0.0	12.5		12.5
	好転		28.6	37.5	42.9	25.0
	不変		42.9	62.5	42.9	37.5
	悪化		28.6	0.0	14.3	37.5
	DI		0.0	37.5	28.6	37.5
売上高	増加		28.6	62.5	42.9	37.5
	不変		50.0	12.5	21.4	0.0
	減少		21.4	25.0	35.7	62.5
	DI		7.2	37.5	7.2	30.3
収益	黒字		21.4	25.0		
	収益均衡		42.9	75.0		
	赤字		35.7	0.0		
	DI		△ 14.3	25.0		39.3
	改善				35.7	12.5
	不変				35.7	50.0
	悪化				28.6	37.5
	DI				7.1	△ 25.0
料金価格	上昇		14.3	25.0	0.0	12.5
	不変		57.1	50.0	64.3	37.5
	低下		28.6	25.0	35.7	50.0
	DI		△ 14.3	0.0	△ 35.7	14.3
仕入価格	上昇		42.9	37.5	50.0	37.5
	不変		57.1	62.5	50.0	50.0
	低下		0.0	0.0	0.0	12.5
	DI		△ 42.9	△ 37.5	△ 50.0	5.4
在庫	過剰		10.0	14.3	0.0	14.3
	適正		80.0	85.7	90.0	85.7
	不足		10.0	0.0	10.0	0.0
	DI		0.0	△ 14.3	10.0	△ 14.3
資金繰り	好転		0.0	50.0	21.4	12.5
	不変		64.3	50.0	57.1	62.5
	悪化		35.7	0.0	21.4	25.0
	DI		△ 35.7	50.0	0.0	85.7
同期比	売上		△ 21.4	12.5		
	収益		△ 21.4	25.0		
雇用（人員） （不足感）	過剰		7.1	12.5		
	適正		57.1	75.0		
	不足		35.7	12.5		
	DI		28.6	0.0		△ 28.6
有効回答事業所数		14		8		

No.2

項目		調査期	28年 4～6 月期	28年 7～9 月期	対 前期比	28年 10～12 月期 (予想)	
設備投資動向	設備投資意欲		△ 28.6	△ 12.5	△ 7.2	14.3	△ 12.5
	設備投資状況		△ 15.4	△ 37.5			
	実施した(%)		46.2	85.7	30.8		83.3
	設備更新(補修・更新)		46.2	85.7	30.8		66.7
	技術革新		0.0	0.0	0.0		0.0
	研究開発		0.0	0.0	0.0		0.0
	新規事業進出(経営多角化)		0.0	0.0	0.0		0.0
	事業(能力)拡大		0.0	0.0	0.0		0.0
	人件費削減		7.7	28.6	15.4		50.0
	福利厚生		0.0	0.0	7.7		0.0
	IT導入		0.0	14.3	0.0		0.0
	その他		0.0	0.0	0.0		0.0
	実施しない(%)		53.8	14.3	69.2		16.7
	経営上の問題点(%)	売上(受注)の不振		57.1	62.5		
利益の減少			42.9	25.0			
原材料(仕入れ)高			14.3	25.0			
原材料不足			0.0	0.0			
販売経費増			0.0	12.5			
求人難			21.4	12.5			
人件費高			21.4	37.5			
代金回収困難			0.0	25.0			
支払期間の短縮			0.0	0.0			
借入難(割引難)			21.4	0.0			
金利変動			0.0	0.0			
株価変動			0.0	0.0			
為替変動			0.0	0.0			
設備・店舗の狭小			0.0	0.0			
機械設備の老朽		57.1	37.5				
過当競争の激化		35.7	50.0				
特に問題なし		0.0	0.0				
その他		0.0	0.0				
行政等に希望する企業支援策(%)	減税		64.3	62.5			
	公共事業の増加		14.3	25.0			
	新設の融資制度		42.9	50.0			
	助成制度(補助金等)		78.6	50.0			
	セーフガードの発令		0.0	0.0			
	取引斡旋		0.0	0.0			
	社債引受		0.0	0.0			
	雇用維持支援		14.3	37.5			
	転職支援		0.0	0.0			
	雇用保険の充実		7.1	0.0			
	研修・訓練		14.3	12.5			
	異業種交流		0.0	0.0			
	産学官の連携		7.1	0.0			
	特になし		0.0	12.5			
その他		14.3	0.0				
有効回答事業所数		14		8			